



アースランチのポスターは、学校ごとに制作。児童が撮った写真を使い、プロのデザイナーとともに作りあげている。

ここに教育あり

起郷家教育の推進 ～全市で取り組むキャリア教育体系～



静岡県牧之原市教育委員会 教育長 **橋本 勝**

牧之原市の「起郷家教育」

牧之原市では現在、全市内公立小中学校を挙げて、学校間の連携のもと、キャリア教育を推進しています。牧之原市のキャリア教育のキャッチフレーズは「起郷家教育」です。「郷に学び、将来を見通し、自ら行動を起こす」若者を育てていくことがその理念です。

本市では、市立10校の小中学校を、令和12～15年度を目途に、2つの義務教育学校に再編することを計画しています。平成31年3月に策定した「望ましい教育環境のあり方に関する方針」において、子供たちに育みたい力を「次代を切り拓く力」とし、キャリア教育を軸とした9年間の系統立てた学びの実施の方向性を示しました。第3次牧之原市総合計画において、キャリア教育（起郷家教育）の推進を重点戦略プロジェクトや政策の1つとして位置づけ、学校・地域・行政が一体となって取り組んでいます。

起郷家教育の体系と推進体制

「起郷家教育」の特徴は次の5点にまとめられます。

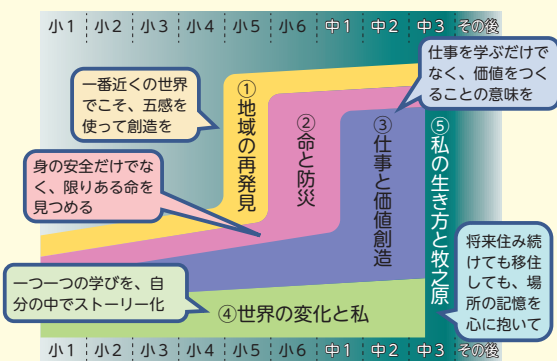


図1 起郷家教育体系図

- 育もうとする資質能力を体系化し、キャリア教育を通して計画的に育成しようとしていること
- 小学校から中学校まで一貫した連携で取り組んでいること
- 起郷家教育全体が、一貫したストーリー性のあるプログラムとして組織化されていること
- 3つのプログラム（後述①・②・③）を中核に、課題を発見・解決していく創造的な学習（PBL）に力点を置いていること
- 専門部会を設置し、大学・地域とも協力しつつ開かれた開発・推進体制を構築していること

この起郷家教育の体系は左の図1の通り「地域の再発見」「命と防災」「仕事と価値創造」「世界の変化と私」「私の生き方と牧之原」の5つの柱で構成されています。

- ①「地域の再発見」：地域について学ぶだけでなく、創造を通して地域の可能性を探り、かたちにする（試行4年目）。
 - ②「命と防災」：地域防災をきっかけにして、命の大切さや自分の生き方を考える（試行1年目）。
 - ③「仕事と価値創造」：これまでの職業学習にとどまることなく、「仕事」を通して自身の生き方と価値の創造を試みる（試行2年目）。
 - ④「世界の変化と私」：児童生徒が体験して学んだことを記録・蓄積する（現在検討中）。
 - ⑤「私の生き方と牧之原」：義務教育9年間の起郷家教育をまとめ動画として表現する（今後検討予定）。
- いずれのプログラムも、現在模索の途上にあり試行錯誤を重ねています。検討に当たっては静岡大学教職大学院武井敦史教授を部長に据え、市内学校の代表者を加えたキャリア教育プロジェクト部会を運営しています。
- キャリア教育の推進に当たっては、教育委員会が積極的にリーダーシップを発揮しつつ、各学校の状況や児童生徒の反応を確かめながら、少しずつよりよいものにしていこうと考えています。本市のこれまでの取組は、「キャリア教育優良教育委員会」として、令



地域の方と稲刈り。

和4年度に文部科学大臣より表彰を受けました。

創造的PBLとアースランチプログラム

起郷家教育の中でも核となる、小学校5年から本格的に始まる「地域の再発見」「命と防災」「仕事と価値創造」の3つのプログラムは、創造的なプロジェクト型の学習として、教科横断的に推進されています。その基本的な姿勢は以下の3点にまとめられます。

- 地域活動など小さいことでもよいので社会のリアルに触れさせること
- 活動しながら内省し一人一人のウェルビーイングについて考えられるようにすること

○課題に挑戦し、失敗や試行錯誤を繰り返しながら、新たな価値を創造していくという

以下に「地域の再発見」の中心となる「アースランチプログラム」を紹介します。

アースランチプログラムは食をテーマにした取組で、料理の考案から食材の栽培・調達、調理、プレゼンテーションまで、すべて児童が企画・実現させる活動です。令和2年度からスタートし、本年度で4年目を迎えました。基本調味料と児童たちで栽培・調達した食材のみで、今までにない一品料理をつくるのがその課題です。

アースランチプログラムは、次の①から⑦までのユニットで構成され、総合的な学習の時間のほか、各教科などで年間50時間程度で実施されています(図2参照)。

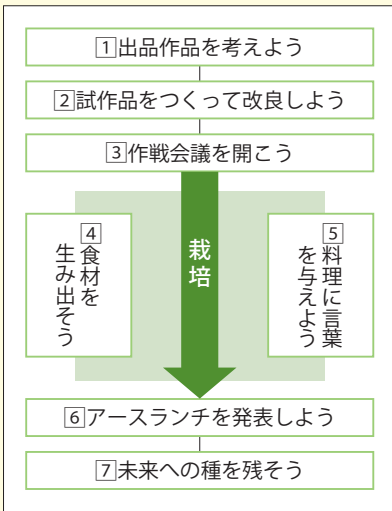


図2 アースランチプログラムユニット構成図

①では、食を題材に地域の資源

を新たな視点で見つめ直し、身近な食材を組み合わせて料理を考案することにより、想像力を膨らませる楽しさやアイデアの出し方を学びます。②では試作品をつくってみて自分たちの発想のどこに問題点があるのかを見いだします。

その上で、地域の大人など経験者のアドバイスを聞き、自分たちに足りないものを取り入れていきます。③では、アースランチの試作品から料理に必要な食材の分量や、それらをどのように入手するか、その構想を練ります。④からは、児童の主體的な栽培活動を開始します。休み時間など授業以外の時間を活用して食材を栽培・調達します。⑤では、プロのデザイナーの力を借りながら、ポスターやプレゼンテーションを作成します。

⑥では、創作したアースランチについて、アピールポイントを盛り込んだプレゼンで自分たちの思いを表現します。そして、⑦では、創作活動全体を振り返り、自分の成長や地域の未来について考えます。すべてのユニットにおいてルーブリックを作成し、学力指標と関連づけて学力の伸長をアセスメントしてまいります。

「最初は、食べられないような味だったけれど、試作を繰り返しておいしくなっていた」「自分たちが育てた食材で、新しいものをつくり出すことはおもしろい」「みんなで考えたものが形になり、世の中の方に知ってもらえて嬉しかった」などの児童たちの感想から、取組後の成長を感じます。実際に授業を行った教員からは、「様々な教科と関連付けたカリキュラムマネジメントを行うことで学びが連続し、児童は多面的・俯瞰的に物事を捉えることができるようになった」という声が多く聞かれました。

今後の展望

本市のキャリア教育の体系は、まだ発展途上ではありますが、昨年度、中学校では命について考える防災学習として「減災行動プランづくり」に取り組むなど、一歩ずつ理念がかたちになりつつあります。今後、自分自身だけではなく周囲の人や地域についても考え、未来に向けて実際に行動を起こせる人間の育成を目指して歩みを進めてまいります。